

ほめて育てる「子どもの生きる力」

みなさんが子育てで大切にしていることはありますか？自分の子どもには、うまくやってほしい、お友達に嫌われないようにしてあげたい、けがをしないように、と我が子を大切に思う親の気持ちは今も昔もかわりません。でも、子どものことを思うあまり、ついつい手をだしてしまったり、口をはさんでしまったり、という経験、ありませんか？子どもの自発性を重んじるモンテッソーリ教育の「おとなの心得12か条」というものがあります。自分の胸に聞いてみると、はっとすることがあるかもしれません。

おとなの心得12か条

- 1 子どもに必要なだけ、子どもと関わしましょう。
- 2 子どもがいると、もてないところでも、子どもの悪口を言ったりはできません。
- 3 子どもがよいところを見つけたら、強くしていきましょう。
- 4 物の正しい扱い方を教え、それらがいつもここに置いてあるかを示しましょう。
- 5 子どもが環境と交流を始めるまでは積極的に関わり、交流が始まったら消極的になりましょう。
- 6 子どもが要求に対して、たとえそれができなくても、聞く耳はいつもつけておきましょう。
- 7 子どもが誤りをいつも指摘して直させる必要はありませんが、子どもが子ども自身やほかの子を傷つけたり、危険があるときには、すぐにやめさせましょう。
- 8 子どもは何もしていないように見えても、何かを観察しているのかもしれない。そういう時には、あえて何かをやらせなくてもいいのです。
- 9 やりたいことが見つけられずに困っているときには、一緒に探したり、新しいものを見せてあげたりしましょう。
- 10 新しいもののやり方を以前拒まれたことがあったとしても、くり返してくり返し、忍耐強く見せるように心がけましょう。その時は、こぼれては動くを見せるように専念しましょう。
- 11 子どもを信じ、できるものになるのを待ってあげましょう。
- 12 子どもに接するときには、親の所有物としてではなく、一つの人格をもった人間として接しましょう。

未来を生きる子供たち

現代はSNSなどの普及により、個々が興味のある情報を自由に引き出すことができ、価値観も多様化する社会となりました。またA時代の到来で10年後には現在の仕事の半分がなくなるとも言われています。変化の激しい社会を生き抜き、幸せになるために身につけるべきものは、未来を生きる子供たちに必要なのは、主体的に考え、表現する力、新しく創り出す力、人を大切にする力であり、これらに深く関わっているのが自己肯定感であると言われています。

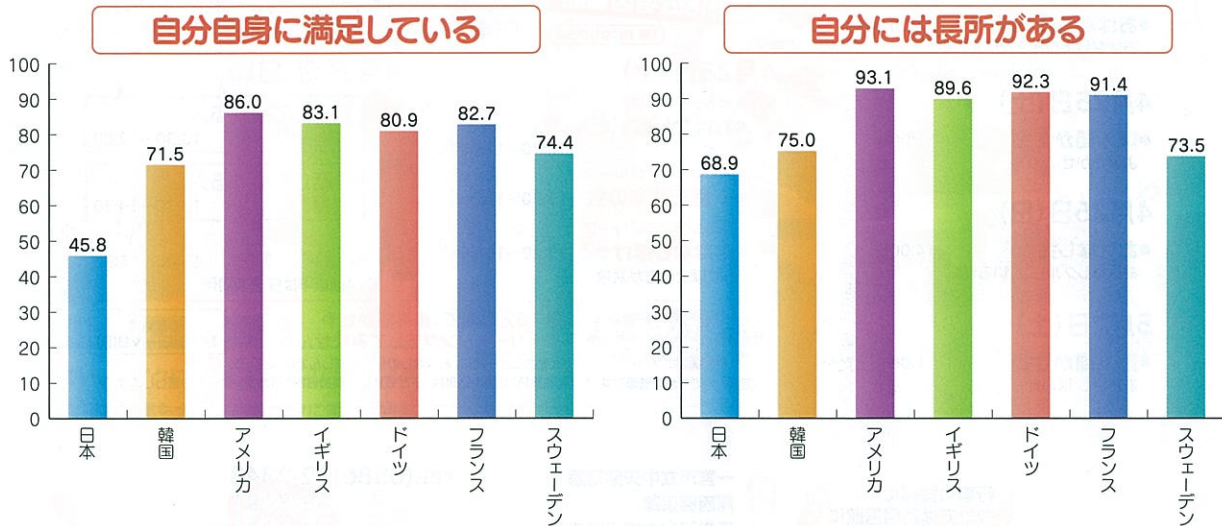


自己肯定感という言葉は、近頃では、書籍や子育て雑誌などでもよく目にするようになりました。自己肯定感とは、

「自分は愛されている」「自分には価値がある」と

自分を前向きに受け止める感情や感覚のことです。子どものころに受けた愛情で、その人の自己肯定感が大きければ、高い壁に立ち向かっていく挑戦の心が育つのです。

しかし日本は諸外国に比べて、自己肯定感が低いと内閣府が発表しています。



※引用:内閣府ホームページ (https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/tokushu_02.html)

子どもの自己肯定感

子どもの自己肯定感を高めるためにカギとなるのは「ほめること」。「ほめられること」は、素直な気持ちや、認めてくれた相手への信頼感が高まり、前向きに物事を考えることができます。そして他人に対して優しくすることができ、自分自身が挑戦したという事実やその過程、その結果に対してほめられたという経験は、もちろん必要ですが、もう一つ、無条件に、自分は愛されていることが伝わる言葉が、子どもの自己肯定感を育み、子どもが自立して生きる力を生み出すのです。

あなたの大切な子どもをたくさんほめてあげてください。子ども達は「ほめられる自分」「成功する自分」に出会い、次も自分やってみよう、成功するため、こうしてみよう、と自ら考え、動けるように成長していきます。

子どもを思い、子どもに良かれと思つ、お父さんやお母さんの強い気持ち、大きなエネルギーが、子どもにとってよい良いものとなります。

